



1979 TALENT EDUCATION NATIONAL CONCERT

Violin•Piano•Cello•Flute•Koto by 3000 Children

●March 18[Sun] 1979 p.m.1:30 ●NIPPON BUDO-KAN TOKYO

●Admission—Reserved Seat = ¥1000

第25回 才能教育全国大会コンサート

[バイオリン・ピアノ・セロ・フルート・箏]

3000人の児童による大合奏

●とき——昭和54年3月18日[日] P.M.1:30

●ところ——日本武道館大ホール[東京・九段]

●入場料——指定席 ¥1000



ミュンヘンで国際研究大会

昭和54年特別行事

指導者研究大会は1年毎に海外で行われることになり、第1回大会は昭和50年にハワイで、第2回も昭和52年に同じくハワイで行なわれ、日・米の多数の先生方が出席しましたが、今回はいよいよヨーロッパ、西ドイツのミュンヘンで開催されることになりました。

●名称

第3回スズキ・メソード国際研究大会

●開催地と会場

西ドイツ ミュンヘン市 シェラトン・ホテル

●期間

6月22日[金]～7月6日[金] 12泊15日

研究会は26日から31日までで、この前後はツアーとなります。

●出席予定数

日本——200名以上

アメリカ——300名前後

ヨーロッパ——200名以上

計——700～800名

*第1回ハワイ大会は871名、第2回ハワイ大会は623名の出席者がありました。

●大会委員長——本多正明

●大会副委員長——田中金重

●大会企画委員長——宮沢 進

●東京事務所——水野明夫

●企画委員

広瀬八朗 大熊庸生 原まり子 足立佳代子 佐藤勝夫

安田広務 富川 欽 村上 豊 三樹 正 渋谷重良

高尾 享 津田吉男 青木博幸 小幡良平 大坂和彦

金沢裕久 印田礼二

●ピアノ伴奏——秋葉三佐子[バイオリン]

本多倫子[セロ]

●賛助出演[箏]——正派邦楽会 総裁・中島雅楽之部

●司会——こうのおさむ

●本部

〒390 長野県松本市深志3-10-3 ☎0263(32)7171

●東京事務所

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-9

主婦の友文化センタービル3F ☎03(295)0270

●東海事務所

〒464 名古屋市千種区春岡通4-15 大沢美良方

☎052(751)3436

第25回全国大会を迎えて

●
大会委員長

本多正明

昭和30年3月27日、皇太子殿下をはじめ多くの皇族方をお迎えて、第1回の全国大会が東京都体育館で開催されました。以来4分の1世紀という長い間大会を開き、多くの児童が胸をふくらませて演奏し、又社会へ巣立っていきました。この間、会そのものの発展も誠にめざましいものがあります。

真実のものは、たとえ時間がかかっても必ず正しく理解される時期がくるものと思います。秋まく種は寒い冬、土の中で過ごすことにより発芽いたします。私達が常に口にする「才能は生まれつきでない」の言葉が本当に理解されるにも、当然ある時間を要する訳です。然し声を大にして叫ばなければ、中々理解されないのではないかと思います。

私は数年来多くの脳障害児を治療して、かなりの成績をあげております。その中に一人、7才の女の子が居ります。言葉があまり出ないので、もどかしい思いをしておりますが、ある日私がお母さんと話している間、離れた所で絵を画いていましたが、やがてできあがった絵を私の所に持って来ました。

それは長いドレスを着たお姫様で、片足だけ靴をはき、片足は素足でした。お母さんがそれを見て、「あ、これはシンデレラです。毎晩この子に読んでやっていますけれど、反応がなくてたよりない気持でしたが、ちゃんと頭に入っていたのですね。」と叫ぶように云われました。成程、お姫様を画いた白い空白の右上に、もう片方の靴がかかれています。階段にぬぎ忘れた所でしょう。

頭の中に入れてないものは、絶対に出てこないのだという事が痛感され、感動いたしました。



立派な人柄に、又、 高い感覚と能力の人に育つ音楽教育

●
才能教育研究会会長

鈴木鎮一

今年も又一段と立派な演奏で、この全国大会が盛大に行われることと思います。御参会下さった皆様に感謝いたします。私共は、多年に亘り、「どの子も育つ、能力は生まれつきではなく、育て方ひとつ」であることを、世界に向けて実証して参りました。

この運動も、今や、世界中に大きく拡って参り、母国語の教育法、即ち「鈴木メソード」の教育法は、音楽ばかりではなく、総ての教育の原理として、正しく理解され始ったことは嬉しい限りであります。

今年は6月26日から5日間、西ドイツのミュンヘンで、国際研究大会が開催されることになっています。0才からの育てる条件次第、どのようにも育つ、すばらしい幼児の生命のその働きを、ほんとうに正しく理解して、新しい人類の世界をつくり出すことは、全人類に果せられた最も重大な課題でありましょう。今迄は、育った結果をみて、生まれつきの優劣だと信じてきた今日までの人類の最大の誤りを一日も早く、訂正すべきです。

音楽で、こうしてバッハやモーツァルトの高い感覚を身につけて育ち、美しく高い感覚の人間に育てゆく子供達は、又能力も高く育ち、私の40年間の調査ではっきりと知ったことは、その能力が、学校の成績の上にもあらわれ、その子供達は皆トップクラスであることです。然しもっと重要なことは、高い人柄、美しい心、高い感覚の人に育つその事実なのです。今日の演奏をどうぞお聞き下さい。



鈴木メソードを生んだ日本の責任

●
幼児開発協会理事長

井深 大

鈴木メソードの才能教育運動がいよいよ世界的に火がついて来た感じである。

昨年だけでも百名の生徒達がカーター大統領を訪問し、演奏会を開いたのを始め、サンフランシスコでの国際指導者研究大会、国際ロータリー東京大会での演奏、毎年の米国演奏旅行も濠洲まで延長する等、幅広い国際活動が行われた。

才能教育はよい音楽家をつくる為の音楽教育だけを目的としたものではない。世の中をよりよい世界にする有力な手段として広く認められ、世界中が動き出したといっただろう。

10万名以上の鈴木チルドレンが米国に生まれ、濠洲、カナダ、その他ヨーロッパでもどんどん増えつづけている。その中で日本だけが1万名内外で落ちついてしまっている。なにも数が増えることだけに意義があるとは思われないが、日本で生まれた才能教育であるのに、日本国内でいま一つ燃え上りが足りないと思うのは私一人ではないだろう。

鈴木先生によって見出され、築き上げられ、世界に類のない稀な傑作である鈴木メソードは、鈴木先生だけで終わってしまうものであってはならない。よりよい発展が未来に築かれなければならない。日本は宗家としての責任があると思う。今こそしっかりした組織づくり教育の方針等を確立しておかなければならない時である。全国大会に参加された皆様にこの事の重要性をうたえて、この大会への言葉としたい。



第25回 全国大会プログラム

- 箏とバイオリンの合奏● 1・春の海———宮城道雄
- セロ合奏● a・キラキラ星変奏曲———鈴木鎮一
 b・メヌエット———バッハ
 c・ブーレ———ヘンデル
 d・メヌエット———ベートーベン
 e・ソナタ ホ短調 第1-2楽章———ビバルディ
- 箏合奏● 六段の調べ———八橋検校
 松籟譜———中島雅楽之都
- *この2曲を同時に演奏します
- フルート合奏● a・「アルルの女」よりメヌエット———ビゼー
 b・ブーレ———ヘンデル
 c・「アルルの女」より間奏曲———ビゼー
- ピアノ独奏● 協奏曲 ニ長調 第1楽章———ハイドン
- バイオリン合奏● 2・コンチェルト ソナタ ホ短調 第2楽章———ベラチーニ
 3・協奏曲 イ短調 全楽章———バッハ
 4・アレグロ———フィオッコ
 5・二つのバイオリンの為の協奏曲 第1楽章———バッハ
 6・協奏曲 イ短調 第1楽章———ビバルディ
 7・ブーレ———バッハ
 8・メヌエット(3巻)2部合奏———バッハ
 9・二人のてき弾兵———シューマン
 10・ロング ロング アゴー ———ベーリー
- 1979年卒業式● 挨拶———大会委員長 本多正明
 挨拶———会長 鈴木鎮一
 卒業証書授与———会長 鈴木鎮一
 祝辞———理事長 井深 大
- バイオリン合奏● 11・ガボット———ゴセック
 鈴木先生と一緒に

*メヌエット1番、無窮動、アレグロ、蝶々、キラキラ星変奏曲を2部合奏で演奏します。

螢の光

*全員で合奏と合唱



1979 TALENT EDUCATION NATIONAL CONCERT PROGRAM

- KOTO and VIOLIN● 1・Haru no Umi———M. Miyagi
- CELLO● a・Twinkle, Twinkle, Little Star Variations———S. Suzuki
 b・Menuette———Bach
 c・Bourrée ———Händel
 d・Menuette———Beethoven
 e・Sonate in E min. 1st and 2nd mvt. ———Vivaldi
- KOTO● Rokudan———K. Yatsunami }
 Shourai-fu———U. Nakazima }
- FLUTE● a・Minuet from "L'Arlésienne" ———Bizet
 b・Bourrée ———Händel
 c・Intermezzo from "L'Arlésienne" ———Bizet
- PIANO SOLO● Concert D maj. 1st mvt. ———Haydn
- VIOLIN● 2・Sonata E min. 2nd mvt. ———Veracini
 3・Concert A min. 1st, 2nd and 3rd. mvt. ———Bach
 4・Allegro ———Fiocco
 5・Concert D min. for Two Violins 1st mvt. ———Bach
 6・Concert A min. 1st mvt. ———Vivaldi
 7・Bourrée ———Bach
 8・Minuet ———Bach
 9・The two Grenadiers ———Shumann
 10・Long Long Ago ———Bayly
- Graduation Ceremony● Opening Greetings———Chairman of National Concert M. Honda
 Greetings ———President S. Suzuki
 Presentation of Diplomas ———President S. Suzuki
 Words of Congratulations ———Chairman of E. D. A. M. Ibuka
- VIOLIN● 11・Gavotte ———Gossec
 With Mr. Suzuki
- *Minuet 1, Perpetual Motion, Allegro, Lightly Row, Twinkle Twinkle Little Star Variations.

Auld Lang Syne



25年をふり返って

大会企画委員長
宮沢 進



今や内外の注目を集める、年中行事の一つになりましたこの全国大会も、今年で25回を数えます。コートに顔を埋めたくなる様な寒い大会。桜の蕾があわてて咲き出す様な春の日ざしを浴びた大会。冷たい雨にうたれて子供

達がふるえながら集まった大会。さまざまな大会が想いかえされます。今でこそ昔の語り草になっていますが、最初の頃の大会は、経験も乏しく、夜を徹して企画や準備にあたり、果して計画通りに進行出来るかどうか、眠れぬ夜が続いたこともあります。始めは始めなりの苦勞があり、25年後の今では、3千人にふくれ上った子供達の安全を考えた誘導、ステージの設営、音響等、企画委員一同苦心しております。毎年くり広げられる演奏の輪



や列は同じでも、参加する子供達は変化していきます。25年前の大会に、5才で参加した女の子は、今や30才、わが子の幸せに心をくだく母親となり、10才で参加した男の子は、今や35才、社会で活躍する中堅の職業人となっています。それぞれ歩く道は異っても、才能教育で学んだ理念を、現在の生活に生かしてくれようと思います。一つの事を長く続けていくことは、平凡の様に思えて、教育の本質に触れる大切な問題があるように思



います。千変万化は新しさと華やかさで人の目を奪います。しかし変わらないことは新しさ以上の価値があります。但し、反省のない同じことのくり返しだけでは革新も創造も生まれません。お互いに心すべきことだと思います。最後になりましたが、多くの皆様の変らぬご理解とご支援、並びに全国の諸先生、支部長各位の蔭のご助力が、25年の歳月をのりこえる大きな力になりました。25周年を迎えて、記して感謝の意を表わしたいと思います。

大きな反響のあった日米記念コンサートの報告

鈴木鎮一

才能教育通信第402号 昭和53年5月15日より

出発

4月8日羽田を出発した百名の生徒達、日本の各地からの6才からの殆んどが小学校年令の生徒達、リハーサルもなく羽田に集まって出発、又アメリカの百名の生徒達も、同様にアメリカの各地からの集まりで、日米共にリハーサル無しの集まりです。そして翌日、9日の夜のワシントンのケネディーセンターでの、8時からのコンサートというわけです。私は内心一寸心配をしていたことは、9日の午後、全員2百名の日米の子供達が、ただ1回のリハーサルだけで、夜のコンサートが、うまく合っただけでよい演奏になるかどうか、ということでした。

リハーサルは1回だけ

ところが、9日の午後の日米2百名のリハーサルをきい

て、安心しました。

アメリカの先生達のオーケストラ伴奏で、バッハの協奏曲第1楽章、エクレスのソナタ第1第2楽章、フィオッコのアレグロ、ビバルディのト短調第1楽章、そしてバッハのドッベル協奏曲第1楽章と、初めてのリハーサルで、とても立派にホール一杯の美しい音でよく合ったよい演奏でした。

アメリカの生徒達もよく育っていてとてもうれしい限りでした。能力が立派に育てられている証拠です。

夜のコンサートは、日米共各地から集まって、ただの1回のリハーサルで、あの感動的な演奏がなされているとは、聴衆の誰も、考えることもなかったことでしょう。音楽の歴史の中に新しい時代がはじまったのです。



カーター大統領の感動

ワシントンでのコンサートには、カーター大統領御夫妻も出席して下さいました。

末娘のエミーちゃん(9才)が、ワシントンのコーレ先生についてバイオリンを、鈴木メソッドで習っているのので、才能教育の理解者でもあり大きな関心をもって当夜出席して下さいました。

当夜の演奏は実に感動的でした。最後のキラキラ星変奏曲が終ったとき、カーター御夫妻がステージに現われて下さったのでした。

コンサートなどでは、大統領がステージに上ってくるなどということは、全く異例のことだそうです、感動のあまりでしょう。

大統領がステージに現われたので、私は大統領を迎えて握手の手を出そうとしたら、カーターさんは、いきなり私の肩へ手を出して二人は抱きあって挨拶してしまったのでした。

それからカーターさんは、バイオリンの日本の子供達に握手をしたり、抱きあげたりして、ステージは、とてもなごやかな光景でした。子供達はわれもわれもと手を出してカーターさんに寄り集まってきました。

聴衆も大喜び、大拍手の中に、日米親善のすばらしい美しい感動と共に、大成功のワシントンでのコンサートは終わりました。記念すべきすばらしい夜でした。

カーター夫人の歓迎とワシントンの桜

ワシントンのコンサートの翌日からは2日間、ワシントン見物の楽しいプランでした。最も印象に残ったのは、百名の生徒さん達やお母様達先生達のホワイトハウス訪問で、カーター夫人が皆さんを迎えて歓迎して下さいました。そのことと、ワシントンの大公園の日本の桜の花の美しかったことでしょう。あの美しい見渡す限りの湖水のまわりに、日本ではみられない美しく広大な桜の花の公園のその美しかったこと、見てきた人でなければ、あの美しい桜の公園のすばらしさはわからないかと思えます。

日本の桜をみただけでは、ワシントンへお出かけ下さいと言いたい位です。

アトランタでのコンサート

4月13日夜、コンサートはアトランタのシンフォニーホールで行なわれました。大きなホール、又とても音響的

にすばらしい2千人ほど入るホールでした。

2百人の大演奏、ここでも又一層立派な感動的な演奏で、生徒達はとても熱演をしました。そしてここでは思いがけないことが、計画されていたのでした。それは、休憩時間のときに、ステージで、アトランタ市長及び日本の領事立合いの下に、私に対して、アトランタの名誉市民に推戴するという儀式が行なわれ、又その日、即ち4月13日をもって、アトランタの「鈴木の日」ということを決定した、という宣言が、市長によって行ないないホールの全員起立という思いがけないことが行なわれたのでした。私はアトランタ市の3人目の名誉市民だとのことでした。思いがけないことでしたが、誠にうれしいことでした。

最後の日カーネギーホールにて

16日はカーネギーホール(ニューヨーク)での最後のコンサートでした。日米の父兄、先生、生徒達は、その前日2日間ばかりディズニー・ワールドで楽しく遊んでからニューヨークへ到着、リハーサルも無しで、夜8時からのカーネギーホールでのぶっつけ本番でした。

ところがよく遊んだせいか、その夜の演奏は、実に美事で、すばらしい熱演でした。

バッハの協奏曲、エクレスのソナタ、フィオッコのアレグロの力強いとても感動的な演奏をきいて、私はとうとう泣かされてしまいました。聴衆の中にも泣いた人々がたくさん居られたと思います。又アメリカへ最初に鈴木メソッドを拡げて下さった、日本総領事館の望月謙児さんクック先生にも当夜いろいろとお世話をねがいましたが、14年前、アメリカに鈴木メソッドを拡げて下さった望月さんやクック先生御夫妻も、当夜の日米の子供達のすばらしい演奏をきいて、さぞ感慨無量であったことでしょう。

又、今回の日米親善コンサートがテレビ等を通して全米に報されたことにより又一層大きな運動としてアメリカその他へ拡げられてゆくことと思えます。

スミス氏への感謝

全員楽しく大きな使命を果たして、全員無事4月19日羽田に帰着致し私も今回の旅行の大きな意義のあったことをほんとうにうれしく思っています。皆様御苦労様でした。又、スミス氏の大変な御好意を、一同と共に感謝しないではられません。

すばらしい訪米の旅でした。

生命の息吹く日々

スズキ・メソッド夏期学校

ロバート・カリアー

今アメリカでは、本家日本の10倍、10万名ものスズキ・チルドレンがバイオリン・セロ・ピアノを習っていますが、会誌「才能教育」1978年春号に掲載された、ローデ・アイランド大学音楽学部、イサカ・スズキ研究会指導者、ロバート・カリアー教授の記事をみますと、アメリカのスズキ・メソッド理解がおどろくほど明快で奥行きもふかく、したがってその広がりや大ききことが、実によくわかります。

1976年の夏鈴木会長の出席したビスコンシン大学での夏期学校には、15日間に3千名が出席しました。全部の会場がこんな工合ではないでしょうが、とにかく驚嘆すべき状況です。

日本の私達はアメリカの先生方の素晴らしい活動に対して、その認識が大変薄いように思われます。

スズキ・メソッド夏期学校の価値を過少評価してはならない。本質的に才能教育の諸活動ととくに変わったところはないが、この集中的な一週間で、スズキ・メソッドの様々な活動面が統合され、鉛が金に変わるような質的变化が、子供、親、教師など、参加するすべてのものの上におこる。

子供たちにとっては、突如、眼前にひらかれた別の世界である。そこでは、外のどの子供も楽器をひいている。音楽を奏でることが、まるで日常会話のように自然に行われている。その上子供たちは、親たちがただ自分たちの為だけに車をとばしてきてくれたこと、又家族の夏休みの焦点を、子供の音楽の向上のために合せてくれたことに気づいて、何ものかを感じとるのである。子供の士気を鼓舞するのに、これに勝るものがあるだろうか！

[子供の自覚] 夏期学校を終って帰るとき、子供たちが充実した満足感にひたり、音楽の必要と広い世界の中にある自分の立場を感じとるのも当然なことである。教年前、私のクラスの始めたばかりの生徒が、スティープンス・ポイントからローデ島へ帰る初めての旅の途中、不意に「お母さん、ぼくアレグロがひけるよ」と叫び、また動いている車の中でケースからバイオリンをひっぱ

り出すと、今まで習ったこともない新しい曲を弾き始めた。その後、この子は今日まで急速な進歩を続けてきているが、これがそもそものきっかけであった。

[親たちの変容] 親の方もまた夏期学校の体験から、よき母親、よき父親へと変わって行く。彼らが母国語の教育法について、又親の役割について書物からどれ程学んでいたかは問題ではない。ほかの地方から参加した家族と同じ屋根の下で寝食を共にし、言葉づかいや態度を見くらべ、伝ってくる熱心さをつかみとり、スズキ・メソッドとは人生の生き方だと感じとるようになるのである。そうして家庭にもどったとき、日常の問題もスズキ流に処理できるようになっているのである。

[教師の得るもの] 自分の生徒のレベル、経験の多少を問わず、すべての先生がこの夏期学校で、自分自身を見出すことができるだろう。学ぶ立場として、見学者として、主催者側として、いづれの立場で参加するにしても、とにかくここで分ち与えられるアイデアやエスプリは、きわめて高度なものである。一年間の指導の中で湧いてきた多くの疑問、この問題点の交換こそ指導法を磨き上げる上で無限の価値をもっている。どんなに巧みな指導者でも、必ず夏期学校で学ぶものがあるはずである。才能教育の方法は、常に成長と進歩を続けているものなのだから。

[不参加の先生] 生徒の参加を呼びかける予約申込書を隠してしまう先生もいたようである。この種のことは、古い伝統的教育法の残骸を後生大事に守っている人にありがちのことだが、このような心配は無用である。スズキ・メソッドは解放的で大らかな教育法であり、生徒に接したその日から、常に前向きな姿勢で前進するのであり、他のものを破りする必要はさらさらない。ただ、新しいものを建設するだけである。

[夏期学校の驚異] 私にとって最大の驚きは、この夏期学校を組織する人々である。くる夏もくる夏も、いかに多くの時間と労力が注入されることだろうか！しかしこの続くこと自体が、夏期学校開催の大きな肯定であり、又シンイチ・スズキが洞察した人間の最善なるものがその中にちりばめられている。

各州で開かれた夏期学校
ワークショップ・フェスティバル

[紙面の都合で、主催者、責任者、指導者の名前ははぶきました。]

- 5月5日—7日
ワークショップとコンサート
テネシー州メンフィス州立大学
- 6月3日—5日
スズキ・バイオリン・フェスティバル
ウェストバージニア州チャールストン モリス・ハーベイ大学
- 6月4日—8日
ダラス・スズキ夏期学校
テキサス州ダラス大学
- 6月5日—8日
スズキ・ピアノ夏期学校
カンサス州 エムボリア州立大学
- 6月8日—10日
スズキ・ストリング・ワークショップ
ルイジアナ州ニューオーレアンズ テレイン大学音楽学部
- 6月9日—11日、12日—16日
ルイズビル・スズキ夏期学校
ケンタッキー州 ルイズビル音楽大学
- 6月9日—14日
中南部スズキ夏期学校
カンサス州 オタワ大学
- 6月12日—15日
アイダホ・スズキ夏期学校
アイダホ州 ノースウェスト・ナザレン大学
- 6月13日—17日
インターマウンテン・スズキ夏期学校
ユタ州 ユタ大学
- 6月17日—21日
シラカス・スズキ・ピアノ夏期学校
ニューヨーク州 メトロポリタン芸術大学
- 6月18日—24日
グレーター・ワシントン・スズキ夏期学校
ワシントンD・C アメリカ・カトリック大学
- 6月19日—23日
パシフィック・ノースウェスト・スズキ夏期学校
オレゴン州 フォレストグローブ パシフィック大学音楽部
- 6月19日—21日
モデスト短期大学スズキ才能教育
カリフォルニア州 モデスト短期大学
- 不明
グレーター・シカゴランド・スズキ夏期学校
イリノイ州シカゴ デボール大学
- 6月25日—7月1日
東ネブラスカ才能教育ワークショップ
ネブラスカ州リンカーン ネブラスカ大学



- 6月24日—27日
カリフォルニア州 ラ・ホラ カリフォルニア大学
- 6月26日—30日
マンハッタン・ミッドアトランティック・スズキ夏期学校
ニューヨーク市 マンハッタン音楽学校
- 6月26日—28日
スズキバイオリン・ワークショップ
カリフォルニア州 スタンフォード大学
- 6月26日—30日
ノーザンアリゾナ・スズキバイオリン夏期学校
アリゾナ州 フラグスタッフ ノーザンアリゾナ大学
- 6月25日—7月1日
全国チェロ夏期学校
カリフォルニア州 バサデナ カリフォルニア工科大学
- 6月26日—29日
シャロット・スズキ夏期学校
ノースカロライナ州 ハーディング高等学校
- 6月26日—30日
デンバー・スズキ夏期学校
コロラド州 デンバー大学
- 7月9日—15日
スズキ・キングストン夏期学校
カナダ キーンズ大学
- 7月9日—21日
イサカ・スズキ夏期学校
ニューヨーク州 イサカ大学音楽学部
- 6月10日—14日
ノーザンアイオワ・スズキワークショップ
アイオワ州 ノーザンアイオワ大学
- 7月10日—14日
スズキ・ワークショップ
ニューヨーク州 ショトウクワ学院
- 6月8日—
クレアモント・スズキ夏期学校
カリフォルニア州 クレアモント大学院
- 6月23日—
スティープンスポイント・スズキ夏期学校
ウィスコンシン州 ウィスコンシン大学
- 8月6日—15日 ←●8月6日—
サンフランシスコ・スズキ国際夏期学校
サンフランシスコ州立大学

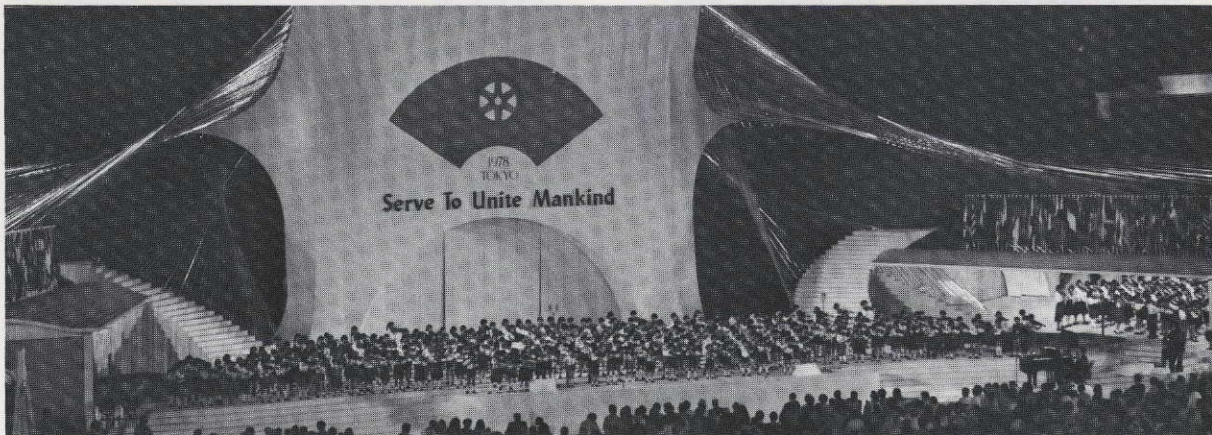
才能教育研究会昨年〔昭和53年・1978年〕の主な行事

ピアノ科卒業式

3月25日 松本地区 才能教育会館〔第8回〕
 3月27日 大阪地区 神戸文化ホール〔第7回〕
 3月28日 東京地区 サンプラザホール〔第8回〕
 3月30日 東海地区 名古屋市民会館中ホール〔第2回〕
 卒業生総数は3093名で、内訳は下記の通り、〔 〕内は卒業曲名です。

前期初等科〔バッハのメヌエット2番〕——1902名
 初等科〔バッハの2つのメヌエットとジグ〕—759名
 中等科〔モーツァルトのソナタK.331〕——261名
 高等科〔バッハのイタリア協奏曲〕——122名
 研究科〔モーツァルトの戴冠式〕——49名
 〔バッハのパーティータ協奏曲1番〕
 〔ベートーベンの熱情ソナタ〕から1曲

ピアノ科の素晴らしい成長がよくわかります。



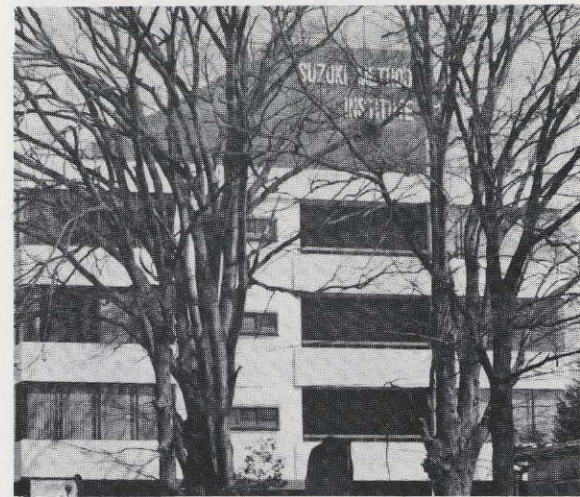
国際ロータリー東京大会に300名出演

5月15日〔月〕午後及び夜の2回演奏
 国立代々木競技場第一体育館

スズキ・メソッド研究所の完成・竣工式 4月28日

アメリカ・アトランタのスミス氏の御好意で、鈴木会長の悲願とする“零才からの育児国策法”研究の重大な使命をになったこの研究所が、現才能教育会館から歩いて数分の至近の距離に出来上りました。

式当日は、スミス氏のユナイテッド・リソーセス社から副社長のシャイデルさん外4名の方達が東京から出席され、又和合松本市長、降旗元市長始め地元の文化人が多数出席して、お祝いの言葉を頂きました。



指導者研究大会

会期——5月21日〔日〕～26日〔金〕5泊6日
 会場——三ヶ根グリーンホテル〔愛知県幡豆町〕
 出席——288名〔各科指導者・ピアノ研究グループ指導者
 本部音楽学校生徒〕

今回は東海地区指導者会の多大の骨折とお世話で、眼下に三河湾国定公園のひろがる三ヶ根山頂の真白で大きなホテルが会場にえられ、全員で毎日研究を行う会議室は400名は楽にはいれる立派なホールで、申し分のない研究大会の設営でした。

5日間にわたり具体的に且つ徹底的に展開される鈴木会長の「研究と実習」は、同地区指導者矢島千世先生のお言葉をかりれば、鈴木先生の全生命からあふれる熱情と力がみなぎったもので、全部で20の研究課題はNo.1「能力は家庭で育つ」、No.2「指導者のレッスンと教室の在り方」No.3「意欲づくりと能力づくり」に始まり、No.7「弓が60グラム、右腕も60グラム」、No.9「5円玉、円運動」、No.10「指のつけ根の力を抜いて、弓を持つ習慣をつける」等でNo.20「自分の音を聞く耳の訓練」で終わります。どの一つをとってみても直ちに血となり肉となる研究と実習です。



第29回夏期学校

前班——7月27日～31日 参加生徒747名
 後班——8月1日～4日 参加生徒599名
 会場——第1会場 松本市市民会館
 第2会場 才能教育会館
 第3会場 スズキ・メソッド研究所
 第4会場 旧松本高校

丁度この同じ時期に前後して、アメリカでは30地区でスズキ夏期学校が行われたわけですが、その中心であり、典型であり、最先端にたっているのがこの松本の夏期学校です。

この期間すべての会場と宿舎では、満開の桜の花が咲き乱れているようにバッハやモーツァルト、ビバルディの名曲がみだされてしまいます。

ゼロの巨匠

パブロ・カザルス先生胸像除幕式

7月31日午後1時、松本市才能教育会館前のライラックガーデンにて

鈴木会長の言葉

「今年の夏期学校における特筆大書すべき行事は、カザルス先生の胸像の除幕式です。全国の会員、指導者の皆さん、及び全国の有志の皆さんの御協力によって、松本のライラック公園に、カザルス先生の偉大さを讃えて、城田孝一郎先生の名作、胸像が設置されたことは、実に有難くうれしい限りでした。知る人ぞ知る、その偉大さを知る、実に意義ある、世界に誇る美しい心の表われでした。」



サンフランシスコ

スズキ国際指導者研究大会

期間——8月6日～15日
 会場——サンフランシスコ大学
 出席——日本212名〔指導者・生徒・父兄〕
 アメリカ・カナダ〔指導者・生徒・父兄〕約800名

日本は真夏、サンフランシスコは10月頃の涼しさに寒い位です。朝の講習会は8時に開始で、終日殆ど休みのないスケジュールです。アメリカの方達は皆喜々と出席していますが、日本及びヨーロッパの先生方は大分こたえたようです。一番平気なのが鈴木先生で、朝定時にレッスンを始められ、一番忙しい先生がいつも一番お元気でした。

鈴木メソッドを、より正しく深く知りたいという各国の先生方の情熱。又よいものはよい、正しいものは正しいと、実にフランクに追求し実行されるアメリカの先生方の姿は立派でした。

この大会には、米、英、仏、独、デンマーク、スイス、日本の各国の指導者が参加し、これらの先生の間から、是非スズキ・メソッドの世界組織をつくりたいとの声が入り、8月10日の午後、コンサート終了後に各国の代表が集まり、日本の本多理事の草案をもとにして原案の作成が行われました。

第14回海外演奏旅行

出発10月1日・帰国11月20日

延べ50日間に、下記の諸都市において21回の演奏とワークショップを行いました。

〈アメリカ〉フェアバンク、アンカーレジ、ペンドルトン、マリオン、フィラデルフィア、ピッツバーグ、オマハ、シカゴ、タルサ、コロムビア、エル・パソ、ラバク、デンバ、サン・ジェゴ、ロスアンゼルス。〈ニュージラランド〉ハミルトン 〈オーストラリア〉メルボルン、ホバート、シドニー、ブリスベン。

今回の派遣生徒は、バイオリン千葉純子、江口有香、鎌田佐代、小原一博、五島美佳、上田明子、渡辺百合子の7名、ピアノは、平世奈穂、伊藤 英の2名、フルートは、宮前丈明の計10名でした。

団長は本多正明理事、指導者は中塚久、安田広務、森ゆう子、川上きよ子の四先生、ピアノの伴奏は武藤純子さんでした。

この海外演奏旅行の御苦勞は、私たちの想像以上に深く大きいものが毎回ひめられてきたことと思われまます。スズキ・メソードがアメリカで見事に花開いたその土壌がこのツアーで年々耕されてきたからです。

国体開会式で天覧を賜った子供達の演奏

10月15日〔日〕午後2時
松本運動公園陸上競技場

長野県のみまびこ国体開会式において、松本周辺の子供達500名が出演し、天皇陛下の御前で祝賀演奏を行いました。夏ごろからリハーサルが繰り返され、準備は実に大変だったそうです。昭和47年の第18回全国大会には、皇后陛下に行啓いただきましたので、これで両陛下に子供達の演奏をしたしくおききいただいたこととなります。

井深理事長叙勲チャリティ音楽会

日時——10月15日〔日〕午後2時
会場——ホテルオークラ 平安の間

春の叙勲で、井深理事長が勲一等瑞宝章をお受けになりました。このお祝いを井深さんが関係しておられる本会、幼児開発協会を始め各団体が集り、そのお気持ちにそってただのパーティではなく、才能教育の子供達のバイオリンとピアノ演奏によるチャリティ音楽会として催されたわけです。指導は広瀬八朗先生、演奏生徒は28名、司会は三国一朗さんでしたが、まことに爽かな、お祝いの気持ちにあふれたよい会でした。



鄧小平中国副首相歓迎コンサート

日時——10月23日〔月〕午後9時30分
会場——首相官邸

10月22日に始めて訪日された御一行は、翌23日の夜、首相官邸で催された盛大なレセプションに出席されました。その直後官邸別室で、本会の子供達の演奏を約15分にわたりお聞かせしたわけです。

当夜、中国側は、鄧副首相御夫妻と来日された全員の方々。日本側は、当時の福田総理始め、全閣僚、野党々主御夫妻など、日・中政界最高首脳の方々が100名程集まられたわけです。

28名の子供達により第一曲目のエクレスのソナタが静かに美しく奏されると、一瞬会場の空気がびんとはりつめられたように感じました。稀に見る感銘のふかい記念すべきコンサートでした。

全国大回25年〔卒業式27年〕の記録とバイオリン科卒業生数

〔ピアノ科、セロ科、フルート科卒業生数は次の機会に掲載します。〕

●卒業課題曲

初等科前期——ガボット〔ゴセック〕

初等科——ブーレ〔バッハ〕

中等科——協奏曲 ト短調 第1楽章〔ビバルディ〕

高等科——協奏曲 イ短調 全楽章〔ビバルディ〕

研究科——協奏曲 第4番 全楽章〔モーツァルト〕

全国大会	卒業式	開催年月日	会場	卒業生(人)	初等科前期	初等科	中等科	高等科	研究科
・	1	27・10・25	東京・共立講堂	196					
・	2	28・10・25	東京・青山学院講堂	363			253	93	17
1	3	30・3・27	東京体育館	613			458	112	43
2	4	31・3・30	名古屋市金山体育館	481			342	107	32
3	5	32・3・31	東京体育館	542			334	159	49
4	6	33・3・30	東京体育館	449			284	126	39
5	7	34・3・28	東京体育館	463			277	136	50
6	8	35・3・27	東京体育館	440			271	107	62
7	9	36・3・28	東京体育館	496			269	139	88
8	10	37・3・31	東京体育館	409			234	122	53
9	11	38・3・30	横浜文化体育館	506			306	126	74
10	12	39・3・30	名古屋市金山体育館	479			327	115	37
11	13	40・3・27	東京体育館	571			367	137	67
12	14	41・3・27	日本武道館	1,364		783	323	180	78
13	15	42・3・26	日本武道館	926		453	252	148	73
14	16	43・3・24	日本武道館	865		384	279	139	63
15	17	44・3・30	日本武道館	910		426	274	142	68
16	18	45・3・30	東京体育館	1,593	656	474	272	137	54
17	19	46・4・3	東京体育館	1,755	854	372	318	141	70
18	20	47・3・26	日本武道館	2,321	1,038	626	350	224	83
19	21	48・3・26	日本武道館	2,325	1,002	695	340	182	106
20	22	49・3・24	日本武道館	2,382	954	729	409	204	86
21	23	50・3・23	日本武道館	2,899	1,230	806	554	192	117
22	24	51・3・20	日本武道館	3,196	1,294	858	574	289	121
23	25	52・3・20	日本武道館	3,196	1,326	878	591	297	104
24	26	53・3・19	日本武道館	3,724	1,459	1,060	709	334	162
25	27	54・3・18	日本武道館						
				計 33,404人	9,813人	8,544人	8,967人	4,088人	1,769人

(今年度第27回卒業生数の集計は3月末になります。)